

令和7年度
「総合的な学習の時間」発表会報告書

広島県立三次中学校

三次市議会

広報広聴常任委員会

令和7年度「総合的な学習の時間」発表会

◆ 趣旨

新しい発想、意見の聴取と議会に対する理解を深め、政治を身近に感じてもらいたいとのことから出張型の議会報告・懇談会として、高校生との意見交換会を実施してきた。令和5年度からは県立三次高校に代わり、県立三次中学校の依頼を受け、三次市の持続可能な発展に関する提案を発表する「総合的な学習の時間の発表会」に三次市議会として参加し、年4回の交流を図っている。

令和6年度以降もこの取組は継続され、今年度においては、11月5日、12月16日に行われた県北地域活性化案の発表会に全議員を対象として参加した。令和8年2月3日には校内で選考された4グループの発表会が開催され、三次市議会から広報広聴常任委員が出席し、その他の出席者と共に更に選考を行ったところである。

そして最終的に選ばれた2グループの地域活性化案の発表を行うにあたり、「課題の発見、設定による思考力の育成」「三次市の持続的発展に対する自らの気づき」「協働的な活動を通じた他者へ伝える思考力、表現力の育成」というねらいに賛同するとともに、議会をより身近に感じてもらうこと、政治に対する関心の醸成に資することととらえ、開かれた議会の一環として議場において発表会を開催した。

総合的な学習の時間 ～三次市議会議員との交流会～

1 内容

全19グループが研究している地域活性化のためのアイデアに対して議員がアドバイスを行う

2 実施日

令和7年11月5日(水) 13:30～14:20

3 会場

広島県立三次中学校 3-A教室、3-B教室、244教室、245教室

県北地域活性化案発表会

- 1 内容
アドバイスを基に、再考した活性化案を発表
- 2 実施日
令和7年12月16日(火) 14:30~16:20
- 3 会場
広島県立三次中学校 3-A教室、3-B教室、244教室、245教室

「総合的な学習の時間」発表会

- 1 内容
クラス内発表会で選考された4グループが活性化案を発表
- 2 実施日
令和8年2月3日(火) 14:35~16:20
- 3 会場
広島県立三次中学校 視聴覚教室

「総合的な学習-まちづくり提案」議場発表会

- 1 内容
最終的に選考された2グループが活性化案を発表
- 2 実施日
令和8年2月16日(月) 15:30~16:30
- 3 会場
三次市議会議場

当日の様子（11月5日）



議員アンケート（11月5日）

1.本日の感想

今回の総合的な学習の時間に参加させていただき、元気をいただきました。最初の話では、ターゲットを絞りきれいになかったのでコンセプトもまとまりきれいになかったのでターゲットを絞る提案をしました。そこから話が活発になり次々アイデアが出てきて次の発表までどこまでまとまるか楽しみです。

女子4名、活発に意見を出し、よく話を聞いてくれた。小中学生ならだれもがやってみたいと思う学校を使っの”きもだめし”幽霊屋敷を観光の売りにしようという発想は「子ども」らしくて素直に受けとめられら。怖がらせるアイデアはいくつか提示したがこれは、子どもたちにまかせた方が良かったと思った。観光で取り組むのなら、学校幽霊屋敷（ホテル）を地域を巻き込んで進めることを提言した。うれしいの募集、アイデアだけでなく1教室貸出等いかに怖がらせるか楽しくしながら、地域をまきこんでの企画になるよう最後にまとめられたと思う。

「観光客が少なく、行きたい場所・見どころがない」という人が多いと聞いているので、観光戦略の一つとして、キャンプ場を作ったり、フォレストアドベンチャーを作り、三次の魅力を知ってもらったり、三次の象徴になるのではないかと考えを提案された。

・市内には幾つかのキャンプ場があることをまず確認すること、新名に設置するのであれば、魅力ある候補地を選定することがまず必要である。

・動物とのふれあい広場を一緒に考えては。

・実現可能な提案が必要である。（コスト低）以上提言

何か私たちが協力できることがあれば、相談していただければと思いました。

私はB組Fグループを担当いたしました。生徒は4名 プロジェクト案については「三次まるごとリフォーム」

1 既存の保育所をリフォーム、送迎付きの保育所をつくる。

2 保育士の給料アップ

3 移住促進を図り、市で家具付き物件（家）を建てる。

1番については、三次市内の保育所の数と毎年リフォームについて考えること。

送迎については市内2か所(三和、甲奴)で行われていることを説明しました。生徒たちは、子どもたちにきれいな保育所に通わせたいというすばらしい考えを持っていました。それが人口減少、子育てにつながるとの考えを発表してくれました。

2番については給料が上がると保育士さんが増えるから。今の状況では保育士さんが大変とのこと。

3番については、市の移住定住支援について説明しました。その中でスターボックスを三次によんでほしいとの意見があり、生徒たちは、三次にない有名な商業施設を望んでいると思いました。最後になりましたが、生徒たちは三次の人口減少をどのようにしたらふせげるか、いろいろ考えています。私達もこの大きな課題に真っ向からむかって行きたいと考えます。

今回、県立三次中学校3年生との交流会にて「芸備線で町興し」というテーマでディスカッションなり意見交換をした。芸備線の配線を防ぐべく観光にて乗客数を増やすアイデアをたくさん出されていた。

ワイン列車 ラッピング列車 もののけツアー 霧の海ツアーなど実現可能なものが多かった私は、芸備線各駅でそれぞれ色々な見どころ、逸話、映えスポットなどを提しまとめるのも良いのではと提案した。メンバー各々熱心で対応も良くレベルの高さを感じた。来年以降もこの企画を続けて欲しい。

SNSを使って「きりこちゃん」大アピール について 三次をアピールすることを中三で考えていることは素晴らしいことです。きりこちゃんの活用で動画の活用は重要な手段であるでしょうが、どこの自治体もSNSを活用している。相当のインパクトのあるものが必要ではないか。きりこちゃんとのコラボできる、どこにもないキャラクターを若い人で考えてみてはどうかと思います。

◎今回は生徒さん4名～5名のメンバー構成となり議員も1名体制の指導で細かいところまで指導しやすい環境でした。

◎グループ分けの人数もこの程度で誰でも発言できたのでよかったですと思います。

◎プロジェクト案に対して今回は1回目のプレゼンでしたので予算や市の補助制度の活用などは説明はありませんでしたが、次回以降市役所や関係団体等にヒアリングしていくことを生徒さんが言うていただきました。

課題の着目点としてはとても良いものでした。

取り組む方向性も中学生としては素晴らしいものでしたが、仕方ないとは思いますが考察がまだまだ浅いものだと思いましたので、そこをアドバイスしたつもりです。

目の付け所は良いので、実現するためどうすればよいかのかがこれからの課題だと話しました。

今後の取り組みに期待したいです。実現すれば面白いと思う所です。

三次市のことを思い身近な所からの問題提起は現実に近いものがありました

テーマが「三次市にイオンモールを」であった。民間事業者は利益が上がらない地域には出店しないことや、三次市に多い小規模店舗への影響なども考えてみてはとアドバイス。大規模店の失敗事例も調べてみよう。ただ、希望として新居浜市の高校生が起こした「我が街にラウンドワンを」という運動を参考にしてみても？とヒントを投げました。今年は熟度が低く、生徒の自主性を損ないそうな意見交換会でした。

生徒たちのやる気がすごいなと感心しました。

次回までに、サングリーンさんに直接お話を聞いたのかどうなのか。楽しみにしています。

失敗を恐れず進んで行ってほしいです。

三次市の現状を「観光客が少ない」としており、根拠のあるデータや飼料として、令和6年度の観光客数をひろしま公式観光サイト、drive!HIROSHIMA事業者向けより抽出して、客観的なデータに基づいて考察がしてありました。

メリットとして観光客が増えることによって三次市の知名度が上がる。バスをチャーターして、1日目は平田観光農園、2日目はもののけミュージアム、三次ワイナリーに行くという内容。バスには10人から15人の乗車があるとの想定でした。

聞かしてもらう中で、少しでも多くの皆さんにきて、三次を知ってもらいたいとの思いが伝わってきました。各施設の利用料金等は調べてあり、1泊2日の旅行日程でどのくらい費用がかかるかなどまでは算出がしてありました。

私の方からは、ターゲットの年代やどこに住んでいる方をターゲットにするか、三次までのアクセス手段はどうするのか。年間の回数が少ないと、収益の回収が難しいのではないかと提案をいたしました。全体的な提案としては、もう少し具体性を持って、ある程度プレゼンの資料まで作っている状態が良いのではないかと感じました。前提が漠然とした状態でまとまっていない状況でありますと、議員のアドバイスがメインになってしまう可能性があり、あまり実現性がない突拍子のない提案でもよいので、中学生らしい発想のプレゼンにしてもらった方が、あまり現実性を重視するが、ために小さくまとまるよりはよいのではないかと感じました。どちらにせよ、必ずしも三次市出身でない生徒もいらっしゃり、それぞれの住んでいる環境から感じることを、今回の提案に入れてあり、三次市の為に様々に考えてくれていることに深く感謝です。これから、どのようにブラッシュアップされていくのか楽しみであります。

みよしキャン〜バスツアーに来てみんなさい〜

Dグループは、三次の観光人口を増やすことと、増え続ける耕作放棄地の活用を目的としてキャンプ場建設も含めた構想を考えておられました。おそらく三次市外の方がターゲットで芸備線や福塩線の利用にも考慮したものと感じました。また増え続ける耕作放棄地をキャンプ場として利活用することで地域活性化も図るという幅広いものと聞かせていただきました。三次駅にバスで迎えに行きワイナリーや布野道の駅や神野瀬フィッシングに平田観光農園など組み合わせることで、キャンプだけでは観光人数は増えても観光での消費額がなかなか上がらない点を補う考えであったと思います。キャンプ場の建設を考えていることは、一旦置いたうえで。参加者のターゲットをどこに絞るのか。仮に普段キャンプをする人たちであれば、道具などにこだわりがあり自家用車で行くキャンプが好まれるので、普段キャンプをされない方がよいのではないかと。また、ツアーでの観光巡りの順番については、2日目の朝食に布野道の駅と検討されていたが、キャンプの朝食は自然を感じながら火を起こして朝食を食べる雰囲気も良かったりします。それに道の駅の開園時間では朝食に使うのではなく、初日の昼食にバイキング料理を検討してみてもどうか。などもう少し全体的な調査ができたらと感じた。また神野瀬フィッシングのタイミングはキャンプ場に行く直前にすることで、釣った魚が晩御飯のおかずになるのではないかと。平田観光農園に行くとしたら季節の果物の淳を調べて果物狩りができる季節も検討の一つになると話しました。生徒の皆さんは、あまりキャンプの経験がないとのことでしたので、無理でなないですが、キャンプが楽しめないと、今回のプランは成立しにくいと思いましたので、現在三次市にキャンプ場がいくつかありますので、目的を絞ってみてはどうでしょうか。とお話させていただきました。せっかく考えてくれているのに現実的な事ばかり言って申し訳ありません。

ジビエ料理を活かしたキャンプ場作り（A組D班）

ハイヅカ湖畔の森キャンプ場の活用策提案について意見交換を行いました。近年のキャンプブームの中で他施設との競合の中で、特色あるメニューの展開でキャンパーの呼び込みを加速するため、ジビエ料理を中心として、様々な地域の食材を提供する仕組みを考えています。まず、なぜジビエに着目したのかの説明を受けた。三次市の課題を抽出したところ、農業における鳥獣被害が増大し、自然環境にも影響を及ぼしていることが深刻であることに着目したとのこと。その解決策として、捕獲して処分するだけでなく、鳥獣肉を積極的に活用して他の農作物や天然キノコ等と地域の逸品として「キャンプ飯」の提案を広く発信するものです。灰塚湖畔の森キャンプ場の利用者増と地域活性化につなげたいとの発想です。

その他、カヌー、魚釣り、ダム見学等のアクティビティと合わせ、泊まって楽しむ企画を提案。スルーされる観光地から稼ぐ観光地として着目したメニューづくりに挑戦しています。自分たちで体験して楽しさを実感していると聞き、頼もしいと感じました。

現在は鳥獣肉加工についての知識だけ浅く勉強しているため、その他の地域の食材とマッチングしたメニューづくりへの知識とキャンプに適した調理実習の積み重ねが必要ですし、情報発信のツール選択も必要です。いかにお金をかけずに効果的に発信するか課題として提案させていただきました。みよしDMOへの相談も有効であるとアドバイスしています。公共、公的機関の活用をもっと積極的に行っていただきたいと思います。

また、SNSで取組中の様子を発信することも情報発信としては効果が大きいと思います。取り組みのフレームは出来上がっているのので、あとは具体的実効性のある体験を積んで中に落とし込んでいく作業が必要だと思いました。何より男子4人が楽しんで取り組んでいる姿が素晴らしい。

「地産地消を活かしたグランピング施設づくり」について

- ①全世代が楽しめるグランピング施設を作る・(場所は平田観光農園近く)
- ②施設は、DIYやレンタル家具、2～3頭規模で経費削減
- ③地元野菜バーベキュー

という3点セットでの地域を活性化するという案でした。

家族が集い、自然の中で楽しむ、「地産地消を活かしたグランピング施設づくり」は面白い企画だと考えます。

しかし、表面的なこと、施設を作ればそれで出来る。というだけでは経営、運営は難しいので、次の点について話し合いました。

- ①グランピング施設は2～3棟で良いのか。附属したキャンプ場は必要ないのか。
- ②水道施設、電気施設は？
- ③地産地消となると、経営者が畑で野菜を作るのか・・・両立できるかな？ 薪や炭の手配も必要
- ④ ③で両立ができないなら、農家と契約して・・・
- ⑤施設を利用する人への発信はどのようにするのか？
- ⑥施設の利用料は、必要経費を考えて、どのくらいが適当か？

などなどいろいろなことを話し合いました。

生徒は積極的に発信し、よく聞き、楽しいひと時でした。

全世代が楽しめる、自然を生かした場所づくりというテーマで三良坂ハイヅカ湖畔の森を活かしたキャンプ場作りを行う構想についてディスカッションを行いました。

まだ具体的な調査が行われていない段階での構想で、先進的な実績のある季節キャンプ場の調査の必要性

キャンプの仕方で全世代対応できるものとはどんなことが考えられるのか

一人キャンプ、グランピングなどのことをどう盛り込めるキャンプ場はどんなものなのか

今後の調査を通しての構想に期待したい

グループH 廃線カフェ～三次の知名度UP～中学生から {テーマの背景・内容・目的・予算概要}などを説明。

議員から ・予算見積もりがあいまいではないか。 ・使用しなくなった車を活用する着眼点は良い。 ・対照する方を絞ることが必要。 ・三次の特産品を積極的に取り入れるべき。JR、広電、商工会やJAなど幅広く賛同を得ることが重要。 ・マスコミを活用するべきではないか。など発言し、意見交換を行った。 当初、双方に緊張感があったものの、対話を重ね後半にはほぐれてきた。さらに、たの事例を参考にするなど、検討を重ね、次の提案を楽しみにしています。

当日の様子 (12月16日)



議員アンケート（12月16日）

本日の感想

どのグループ発表も調査がよくできていると思いました。関係者の意見徴収もできているグループもあり感心しました。君田中学校の跡地利用、ハイヅカ湖畔の森での現存する施設の活用策は議会での一般質問でも使えるのではと思いました。キッチンカーの活用は地域のお店がなくなっている状況での活用策にも使えるのではないかと思います。自然景観を生かした観光振興はロケーションの想像力、シミュレーションが必要ではないかと感じました。

A組Dグループを担当しました。前回から内容を精査し、わかりやすくアピールもしっかりできるようなモニター表示に進展していました。本市では深刻な鳥獣被害対策についてジビエ活用を実際メニューに落とし込んでの提案は分かりやすく、行ってみたい、食べてみたい観光客にとって魅力的な発信だと思いました。鮎のメニューもありましたが、もう少し三次産品でのメニュー提示が欲しいところです。次に期待しています。全体では場所の選定で「ハイヅカ湖畔の森」が多くありました。キャンプの提案が重なってしまい、オリジナリティーにかけたところが残念です。事業経費の確保についても、クラウドファンディングと自治体補助金活用をかんがえているところが多くありましたが、クラウドファンディングについてはすでに魅力的な事業として知られているか、逆に全く新しい魅力を伝えられるか、資金確保にまで到達するにはかなりの創意工夫が必要だと考えます。また補助金申請についてはしっかりとした事業計画が必要です。どのグループも初期費用は概算を提示していましたが、事業自体どれぐらいの収益が見込めるか全く示されていませんでした。事業計画においては一番必要なところでした。しっかり調査すべきでした。また、地域課題探求において、ハード事業に特化していましたが、例えば農業について、いかに持続可能にすべきか戦略を立てるソフト事業としての提案等も取り組んで頂きたいと思いました。全般的には、プレゼンにおいて見える化を意識し、動画を取り入れり、写真表示もありで、わかりやすく見応えのある発表でした。さらに磨きをかけて頂くことに期待しています。

前回に引き続きA組Gグループの”芸備線まるごと周遊フェス”を担当した。三次・庄原×2の3か所でのイベント提案であった。それぞれ具体的な実現可能な提案で、前回よりかなりブラッシュアップであった。他班の提案も、建設費用、事業コストなど具体的な数字の提示もあり、タブレット検索で調べやすくなっているとは言え、素晴らしい発表で大変良かった。

どのグループも良く出来ていました。実現すれば面白いと思える発表もあり感心しました。ただ、財源の求め方がどのグループもCFをあげていたのが安易なような気がしたのと運営主体がどこなのかわからなかったのが残念。それにしてもアイデアは良かったと思います。

私はB組F・G・E・I・Jグループを担当いたしました。①Fグループ（子育てしやすい町づくり）前回のFグループ（11月5日）の担当であり、企画案タイトルについてアドバイスいたしました。②Gグループ（キャンプ場とアスレチックを作ろう）里山整備の関係を入れたら具体的になるのでは。③Hグループ（廃線カフェ～三次の知名度UP）具体的なカフェの数字があればよかった。集客数。④Iグループ（キャンプ場で心をあたためよう）～君の心にきらめきを～三次方面の山林・農地を有効利用する。⑤Jグループ（空き家をきりこカフェに）～きりこちゃんを有名にしよう～きりこちゃんをどのようにPRしていくか。移住促進をはかり市で家具付き物件（家）を建てる。

B組については非常に具体的に地域活性化案がしっかり勉強されていると思います。

どれもこれも完成度が高い内容になっていて、正直驚きを隠せません。すべての発表についてコメントすれば良いのですが、印象に残った内容を記入します。まず全体的な話になりますが、活性化については、これをやれば絶対成功するってわからない時代になっているので、内容もちろん評価しますが、発表の組み立てがどうだったかを注目してみました。「ゴールは何か。そこに行くまでのストーリーはどうか。最初の導入部分で聞いている人の気持ちをつかめたのか。わかりやすい内容になっているのか。説得力があるないようになっているのか。」このような側面から見ていました。ちょっと残念なのは、見りこみすぎて何が言いたいのかが、ぼんやりしてくるケースがあります。思い切ってそぎ落とし焦点をクローズアップすれば際立ってくると感じました。全体的に三次市の課題を人口減少、少子高齢化が背景にある内容だったと思います。それを考えた場合、Fグループの子育ての部分で、（若い世代）外から人を呼び込みたいといった内容で、子育てという内容から学校教育に目を向けていった内容はとても実践的でした。三次市もシティプロモーション活動を行っていますが、全国では子育てから学校教育の特色を出すことで、若い世代を呼び込む施策が徐々にトレンドになってきています。他の自治体でやっていないことを先駆けてやっていくことで、先行優位性が保たれていきます。次に、Hグループの発表の中で、グラフを使い県と三次市を対比して分析をした内容は、新鮮に映りました。データを使用することは一般的になっていますが、広島県と比較する内容は珍しいかと思ひ印象に残りました。それぞれ若い人たちの発表に改めて敬意を表します。ありがとうございました。

皆さん素晴らしい発表でした。私のチームは、前回の話で「実際にサングリーンさんへ行って話を直接聞いてみたら」という提案を実行し、現場の声が入った資料となっていました。とても前向きなことが多く、良い参考になる取り組み方の提案でした。もう少し、発表の仕方を工夫し、自身を持って挑めば、もっともっと良くなると思います。次回が楽しみです。

B組の発表会に参加しました。5グループとも幅広い視野で三次市を考えてくれていることが伝わってきました。多くのグループが人口減少、少子高齢化を分析されていた。サングリーンの現状把握のためのききとりができていて内容が伝わってきた。イオンモール計画のように新しいものを作る案も中学生らしい考えで良かったが、サングリーンを幅広い世代に向けてもりあげる考えも興味深かった。観光の面からは、芸備線やバス会社などを組み合わせていくことや、地元の観光資源に経済効果を考えていくことが出来ていた。全てのグループ資料は目次もあったりして大変わかりやすく素晴らしいものが出来ていました。気になったことと言えば、数字ばかりのグラフは分かりにくいと感じました。大きな予算計画については、クラウドファンディング等もよいが、参加費を徴収することも必要であるのではないか。全国的な成功事例を紹介していたことは、わかりやすかったです。発表スタイルとしては、タブレットを見ながらの説明より、画面を見ながら説明だとひきつけられると感じた。

今年度はグループ班が多くあり、3名～4名の班構成の発表会で聞く側も楽でした。また発表者の方々もいきいきされていた様子でした。前回のアドバイスを参考にされ、予算面やターゲットの絞り込みなどよく調査研究されていました。タイムスケジュールの配分も良かったと思います。議員の方がまとめる時間があまりなかった様子でした。

各グループとも三次市の現状や課題をよく調べており、机上の案にとどまらず、実際の地域や施設を意識した発表が多かったと感じました。現地確認を行っているグループもあり、現実性や説得力のある内容でした。また、未利用施設の活用や中古品の利活用など、現場や地域の将来を意識した視点が共通して見られ、着眼点としてとても良かったと思います。

一方で、どの発表にも共通して、提案内容をもう少し絞り込み、「なぜそれが三次市にとって必要なのか」「誰にとって、どのような効果があるのか」を整理して示すことで、さらに伝わりやすくなると感じました。

私が前回も関わった班については、当時はまだ構成が十分でなかったものの、約1か月で内容が大きく整理され、完成度の高い発表に仕上がっており、大きな成長を感じました。三次市内の生徒は三次市の当事者として、市外出身の生徒は外からの視点で三次市を見つめるなど、それぞれの立場が行かされた発表だったと思います。

◎廃線カフェ～三次の知名度UP～

中学生から前回の意見交換から再提案を説明

議員・カフェの設置場所を観光施設との併設することのメリット

- ・クラウドファンディングのみに頼るべきではない。
- ・鉄道マニアにも来ていただく施設にするべき
- ・JR,広電, 商工会やJAなど幅広く賛同得ることが不十分
- ・他の班の発表を参考に、プレゼンの方法を検討することが重要 など発言し、意見交換をおこなった

2回目の意見交換で、積極的に意見交換ができた。

他の班の発表から学ぶ姿勢も見られ、今後も検討いただきたい。

全グループよく調査されていると感じた。・子育て支援について、本市も庄原市の出産祝い金などを参考にして子育て世代が転入されるように今後検討してはと思った。・市内のキャンプ場を利用して、誰もがドキドキできるアスレチックを作り、動物とのふれあい広場を設け、ペットも同伴できるようなドックランを設ければ、観光地としてPRできると思う。・廃車カフェをもののけミュージアム近辺に設けるのもいいなと思った。・宿泊施設としてログハウス、コテージを設け、遊休地を利用して市外の方たちに畑として貸し出して都会ではできない体験をしてもらうことは非常に良いと思う。

担当していたグループは、前回の話し合いの時の課題を良くとらえ、本日の発表に活かしていた。学習の積み上げが良くできている。全体では、資料の選択その分析などよく考えられていると思いました。教室の中での学習、PCなどを使っての学習も大事だが、三次を活性化というテーマなら、実際に見る、聞くといったことに取り組めたらもっといいなと思いましたが、無理かな。

全体的に、プレゼンの流れがテーマをなぜ課題と考えるかというエビデンスなどのデータや予算まできちんと示したうえで、具体的な提案を行っている点が素晴らしいと感じました。毎年ブラッシュアップされていく様子を頼もしく感じています。すべての発表がしっかりとした三次市の課題に基づいた提案で、私たち議員にもとても参考になるものでした。特に子育て施策についての本市の鳥雲を他市と比較したりしていたグループは、本当に三次の子育てがすごいのかというクリティカルシンキングからの課題提起で、着眼点と調査がとても素晴らしかったです。感動しました。この提案が子どもたちの意見としてまちづくりに反映できるまちになるよう、私たち議員も執行部も取り組む必要があると改めて感じました。次のプレゼンテーションもとても楽しみです。

前回話をさせて頂いた内容をしっかりしらべてありまとまっておりました。5グループとも素晴らしい内容でしたが、まとめる時間があまりなかったので、すべてのグループに的確なアドバイスができなかったと思います。事前に資料をいただければもっといいアドバイスができたかも

良くできていた。

アドバイスした内容をきちんと取り入れ、さらに良いものが出来上がっていた。

どのグループ発表も調査がよく出来ていると思いました。関係者の意見聴取も出来ているグループもあり感心しました。君田中学校の跡地利用、三良坂湖畔の森での現存する施設の活用策は議会の一般質問でも使えるのではと思いました。キッチンカーの活用は地域のお店が無くなっている状況での活用策にも使えるのではないかと思います。自然景観を生かした観光振興はロケーションの想像力、シミュレーションが必要ではないかと感じました。

当日の様子（2月3日）



当日の様子 (2月16日)



議員アンケート（2月16日）

本日の感想

どちらのグループも当初の発表から大きく成長し、ち密な提案になった。すばらしい。A組Hグループは「アウトレットモール」建設の提案。市民の、特に、若者が集う場が必要ということでの提案。また市外からの誘客を推進するための提案でもある。規模は都市型の大型店ではなく、最大30店舗を想定しているが、更に店舗数を絞った方がよいのではないか。近隣地域からの入れ込み客を考えてもそこまで収益が見込めるとは考えられない。またいわゆるブランド品が安く購入できる、アウトレットの店舗誘致よりは、地域の特産品や若い人たちにもシニアにも注目される丁寧な商品選びをするセレクトショップの方がよいのではないか。また面積をとってキャンプ用品の店舗を提案しているが、すでにアウトドアショップでのリサーチはキャンプ関連は流行遅れとされていて、トレンドからは外れている。キャンプのみに特化することは難しい。集客のためにももっと多彩なアウトドアの提案やスポーツの提案などが好ましい。

食の提供もさまざまな年代に対応できるよう、フードコートから、落ち着いて三次の食材を提供する少し高級な食事処も必要と考える。建設費用、運営費用の算出根拠も不明な点がある。もう少しフィールドワークで、本誌の店舗や、経済団体での調査があれば良かったと思う。

B組Hグループは「廃電力カフェ～三次の知名度アップ～」提案。

三次市の観光客の伸び悩みを解決するための事業提案。特に市外からの客数が少ないことを課題に解決策を提案。

まずはアンケート調査だが、「都会でくらしたい理由」について。今回の事業提案には関係性が薄いと思う。「どんな目的で観光地を選ぶか」とか「三次市にほしい観光施設」などの調査の方が提案に即していると思う。

カフェの提案については、すでにモデル事業があり、TTP（徹底的にパくる）実行型で成功事例を取り込んで実現できるメリットがある。

設置場所も「もののけミュージアム周辺」を想定。機関車があつたり、旧尾関山駅でのレールバイクイベントがあつたりと、鉄道ファン、幅広い年齢層の観光客を呼び込む相乗効果がある。SNSでの発信、メディア受け等発信力も期待される。比較的少額での予算で実行できるため、実現性に富む。ただ、収益性を考えると、カフェなので販売価格が少なく、せめて週休2日程度で営業しなくては維持管理料が賄えないと思う。

どちらの班も若者らしい発想での発表であったと思いました。実現できたら若者の居場所ができるのではないか。

A班Hグループは、アウトレットモールの発想は面白いと思いましたが、場所については、30店舗前後のアウトレットモールでどれだけの人が入り込んでくるのかが疑問が残ります。中高生だけで行くにはちょっと距離があり大変な気がします。

B組Hグループは、廃電カフェの発想はよいと思います。もののけミュージアム周辺にすれば、SLもあり相乗効果で効果が上がるかもしれません。営業日が月2回では、採算ができないのでは疑問です。地元の人にも来てもらえることも考えればどうかと思いますが、近所に喫茶店があり強豪にならない方法も必要ではないでしょうか。こんな疑問を感じましたが、中3の若者の発想は今後へつなげることができるのではないのでしょうか。

三次アウトレットモールについて

①三次市の現状については今まで言われていたことであるが、アンケートをもとに、アウトレットモールを作ろうとしたのは、自分たちの希望を夢としたプレゼンに見えたが、夢を実現するために、考えていくことは素晴らしいことです。

②アウトレットモールの設置場所の候補地として、工場跡地としたことは、広範囲な駐車場と店舗、併せて、高速道路から近い点でいえばよい候補地ともいえる。

③アウトレットモールの候補地を同僚議員が市街地的な発言があったが、市街地近郊で土地代が安価で広範囲な土地を確保するためには、交通手段を自動車と考えれば、市街地の近郊に設置することが常道といえるでしょうね。

④アウトレットモールの建設費用からテナント収入等詳細に調べて提案できている点、しっかりと口調で提案できていた点について賛辞を送ります。

廃電カフェについて

①観光客数の伸び率、観光客数の動向等よく調べて、グラフでの見せ方がよいですね。

②廃電カフェは、私が観光協会へ在籍したときに「ある社長」が提案されて事を思い出しました。

③場所は、旧三江線・尾関山駅周辺が趣があり最適地とも考えます。もののけミュージアムと一体的に観光地となればとも考えます。

④すぐにでも実施できればなーと思われるプレゼンテーションと思われました。

⑤営業日は、定休日はあっても年中開いていても、三次町には喫茶店が少ないので地元で愛され、観光客に愛される廃電カフェになるのではないのでしょうか？

⑥廃電カフェと併せて、隣に談話室、研修室ともあれば、もっと利用客が増えるのではないのでしょうか。

三次アウトレットモールを作ろう

廃電カフェ

共に、データや金額などが、詳しく調査研究できていて素晴らしいと感じます。

また、緊張はしたでしょうが、受け答えが中学生とは思えませんでした。プランは、どちらも、実現可能なものだと思いますので、皆さんも私たち議員もあきらめずに心に止めておきたいと思います。お疲れさまでした。ワクワクする発表をありがとうございました。

両グループとも、必要な情報を収集され、上手に提案された発表だったと思いました。「三次アウトレットモールを作ろう！！」については、官民連携による提案は実現可能な内容だと終えた。三次市にも是非作ってもらいたい。「廃電カフェ～三次の知名度UP～」については、提案理由の中で、娯楽施設の少ない地域においては、県外からの観光客が見込みにくいとの動向調査に基づいてであった。確かに本誌においては、娯楽施設が少ないと感じています。予算的には実現可能と思います。

「三次アウトレットモールを作ろう！！」については、三次市の魅力と課題について研究して、ターゲットを絞り込んでいて、目的がわかりやすい。学年のアンケートを実施して身近な声を参考にしていたのも伝わりやすいと感じました。場所の選定では、市内に近い地域で考えれば芸備線や高速バスなどの市外からも集客も多くなるのではないかと感じました。車での集客を目指すのであれば計画の場所も活用できておいても思いました。「廃電カフェ～三次の知名度UP～」について目的を三次の知名度を上げることに絞って、対象を（中・高・大学生）に設定されていた。内容を見ると営業日が月2回の日曜日であることから、中学生や高校生を対象にするのであれば平日の営業も入れて考えた方がよかったかと感じました。場所の選定においては、もののけミュージアムはよいと思いました。SLもあるし、マウンテンバイクとのコラボも出来たら盛り上がりを感じました。

どちらのグループも、現状の分析から中学生らしいアイデアを考えていると思いました。アウトレットの提案に、三次市の財政の具体を分析してその中からアウトレットの予算を考えたのには感心です。現実的かどうかはわかりませんが、必ずついてくる予算の課題を迫った点はよいと思います。

廃電カフェのグループは、クラウドファンディングについて、訳の分からない質問をしましたが、必要な経費を寄付によって集めるためにはよい方法なのではと思うのですが、どうしたら、何をアピールする どんな人・地域 よくわかりませんがどうやって集めるか、SNSやWeb?の手段の活用よりも、何を訴えるかが大事ではないかと思っただけです。よくわかっていないおじさんの声くらいに思ってください。

各班ともに着眼点は非常に良かったと思います。現地調査、研究等が中学3年生という立場では困難の中で、ネットやAI等の情報収集でよく調べていて感心いたしました。また、本誌の将来を見据えて高の目標を設定して発表されたと思いました。思考力、判断力、表現力すばらしかったです。

(1) 発表①「三次アウトレットモールをつくろう」

- ①具体的な場所、規模、財政基盤、目的、行政のかかわり方などが明確になっている。
- ②参考事例を踏まえ、三次に見合った商業施設内のアウトレットではないか。
- ③課題として、ア) メリットを活かし、デメリットを抑える具体策が必要ではなか イ) 他の商業施設や観光施設を結ぶハブ機能の充実が求められるのではないか。 ウ) 有名チェーン店に負けない地元事業所の活用が必要と思う。

(2) 発表②「廃電カフェ～三次の知名度UP～」①「廃電」利用に着目したことはすばらしいと思う。②娯楽施設というよりも商品販売や観光客誘致という側面がよい。③課題として、ア) クラウドファンディングに依存し過ぎではないか。 イ) 運営主体が不明確だった。 ウ) 話題性、周知をどのように取り組んでいくか。(3) 総合的な学習によって、この2班以外の生徒も「三次の魅力」「三次の課題」に気付いていただくことに感謝したいと思う。高校進学、大学進学することで三次市を離れたとしても、ずっと三次市のことを考えていて欲しい。

今回の県立三次中学校の2グループの発表は中学校3年生のレベルではない。高度なものであった。ネットでいろいろ調べやすくなっているとは言え、本当に企業でプレゼンするような出来であった。アウトレットモールは、広島市のアウトレットも苦戦しているが夢のある提案で1日広島オプト跡地の利用のヒントになりうるものであった。廃電カフェは、本当に実現可能な、発案であると思う。もののけミュージアム、尾関山レールマウンテンバイク三川合流部、みよし運動公園、十日市消防署前など是非どこかで実現したい。

今回の発表を聞き、二つのグループとも大変よくまとめられていることに感心しました。課題を丁寧に整理し、仮説思考に基づいて結論へと導くストーリーがしっかり構築されており、全体として完成度の高い内容だったと思います。実現できるかどうかは別としても、提案として形になっていたこと、さらに補完するための細かな工夫が随所に見られた点も印象的でした。発表の際の声の出し方や姿勢も堂々としており、議場での初めての発表とは思えない落ち着きがありました。内容については、議場でもお話ししましたが、A組Hグループの「官民連携」という視点は特によかったですと感じました。これからの時代、自治体だけで全てを担うのではなく、民間と協力していく発想は非常に重要であり、新鮮さもありました。また、B組Hグループは、広島県と三次市の比較や、県内自治体との対比をグラフでわかりやすく示しており、導入部分での工夫が効果的でした。孤独や孤立が社会課題となる中、コロナ禍を経て「人と人とのつながり」の大切さを改めて感じています。今回の二つの提案は、結果として人と人を結びつける内容になっており、その点も高く評価できると感じました。大変意義のある発表でした。

両グループ共によく考えた発表であった。より現実的に思考された事業案になっていた様に思います。が、本当に事業化するには今ひとつ“つめ”が足りていないなと感じました。事業主体（継続のための維持管理）が問題だと思います。できれば、自分たちが考えたこのことを将来大人になったときに実現したいと三次で活躍してくれることを願っています。

受け持った班が最終プレゼンに残ってくれました。成功事例だけではなく、失敗事例を調査することや、得てして失敗しがちな行政主導の娯楽施設について、肝心のプレイヤーを官民連携としながら収支まで出してこられたのはあっぱれでした。廃電カフェは、現実味のあるものでした。旧尾関山駅あたりでオープンすれば、流行るかもと思いました。両班とも議場という異質な場にもかかわらず、質問にもしっかり答えており、すばらしい発表でした。